

日永貴章市長の施政方針



- ① 次代を担う人材豊かなまちづくり
- ② 安心・安全・支え合いのまちづくり
- ③ 心も身体も健やかなまちづくり
- ④ 快適で活力と賑わいのあふれるまちづくり
- ⑤ 継承・発展のまちづくり

計画的まちづくりと魅力発信 公明党あいさい 高松幸雄



Q 10年・20年先を見据えた計画的なまちづくりをどう進めるのか。

A 次期総合計画の土地利用計画に基づき、鉄道駅周辺を都市拠点として市街地を整備し、集約型都市構造への転換を図る。市街化調整区域では良好な農地を守りつつ、地区計画制度等を活用し、

Q 戦略的・効果的なシタイプロモーションをどのように展開するのか。

A シタイプロモーション

ン戦略に基づき、ターゲット層に応じた媒体選択で情報発信を強化する。市民・事業者と連携し、地域ブランドの磨き上げや参加型イベントを推進。観光事業の一元化により点在する魅力を線・面へとつなぎ、認知度向上を図る。

外部専門家の伴走支援を活用し、行政・市民・事業者が一体となった発信体制を構築する。

観光だけでなく、

本市の優れた施策のPRを

日本共産党愛西市議員 真野和久



Q 地域資源の発信や観光だけでなく、本市に住んでもらおうとすれば、どういったメリットがあるのか、しっかりと発信する活動が必要だ。子育てなどの優れた政策や魅力ある施策を体系的に発信する考えは。

A 自然や観光資源のPRだけでなく、実施し

ている子育て支援など、生活に関わる施策を体系的に発信し、住みたい、住んでみたいと感じてもらい、移住定住の促進につなげていくことも重要であると考えている。

Q 今年度、自主防災会連合会が解散する一方で、地区防災計画を

作りたいという新たな取り組みもある。市民の自主防災活動に対して、自主防災会の組織のあり方や支援の充実をどのようにやっていくのか。

A 地域防災力を向上させるためには、自発的な取り組みが重要。主体性を尊重するとともに、活動を継続できるような地域での活動事例など、防災について考えるための情報等を提供していきたい。

子育て支援・公共施設 適正配置の取り組みは 無党派 馬淵紀明



Q 厳しい財政状況の中、子育てしている市民に、本市で出産し育てたいと思ってもらうため、どのように子育て支援に取り組むのか。

A 妊娠出産から子育てに至るまで、切れ目のない施策を展開してきた。各施策を推進し、地域全体が子育てを支えるとい

う認識を共有し、若い世代や子育て世代が本市を選び、安心して家庭を築き、産み育てられる環境づくりを推進していききたい。

Q 停滞していた公共施設の適正配置、統廃合は、スピード感をもってどのように取り組むのか。

A 目指すべきは、限られた経営資源を必要なサービスへ集中させ、量から質へ転換を図ること。この取り組みを加速させるため、公共施設等マネジメント推進会議及び作業部会を軸に、各施設の耐用年数や稼働率維持コストを精査し、具体的な見直しについて、現在検討を進めている。